

知夫村 簡易水道 事業経営戦略

団 体 名 : 知夫村

事 業 名 : 簡易水道事業

策 定 日 : 平成 29 年 3 月

計 画 期 間 : 平成 28 年度 ~ 平成 38 年度

1. 事業概要

(1) 事業の現況

① 給 水

供 用 開 始 年 月 日	S32 年 4 月 1 日	計 画 給 水 人 口	960 人
法 適 (全 部 ・ 財 務) ・ 非 適 の 区 分	非 適	現 在 給 水 人 口	606 人
		有 収 水 量 密 度	千 m^3 /ha

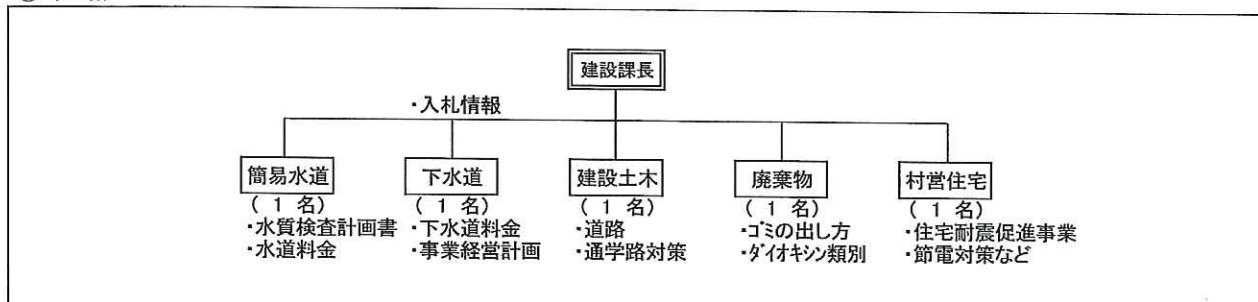
② 施 設

水 源	☐ 表流水, ☒ ダム, ☐ 伏流水, ☒ 地下水, ☐ 受水, ☐ その他 (複数選択可)		
施 設 数	浄水場設置数	2	管 路 延 長 1.9 千 m
	配水池設置数	8	
施 設 能 力	474.2 m^3 /日	施 設 利 用 率	100 %

③ 料 金

料 金 体 系 の 概 要 ・ 考 え 方	・従量制を採用している。		
	一般用水道料金		
	水 道 名	地 区 名	基本料金 超過料金 1トン~ (1トン当り)
	知夫村簡易水道	知夫村一円	600円 (休止) 300円 200円
	営業用水道料金		
	区 分	基本料金 (20トン)	超過料金 21トン~ (1トン当り)
	一 般 事 業 所 用	6,000円	400円
	漁 協 製 氷 用	5,000円	350円
料 金 改 定 年 月 日 (消費税のみの改定は含まない)	平成 16 年 4 月 1 日		

④ 組 織



(2) これまでの主な経営健全化の取組

・平成6年に知夫村簡易水道の水源施設及び配水施設の見直しを行い施設の統廃合を実施した。また、平成16年4月1日より給水条例の全部を改め、給水料金体制の見直しを図った。

*1 「広域化」とは、①事業統合、②経営の一体化、③管理の一体化、④施設の共同化をいい、それぞれの内容は以下のとおりである。なお、将来の広域化に向けた他団体との勉強会の設置や人事交流等について説明すべきものがあればその内容も記載すること。
①経営主体も事業も一つに統合された形態、②経営主体は一つだが、認可上、事業は別の形態、③維持管理業務や総務系の事務処理などを共同実施あるいは共同委託等により実施する形態、④浄水場、配水池、水質試験センターなどの施設を共同保有する形態

(3) 経営比較分析表を活用した現状分析

※ 直近の経営比較分析表(「公営企業に係る「経営比較分析表」の策定及び公表について」(公営企業三課室長通知))による経営比較分析表を添付すること。

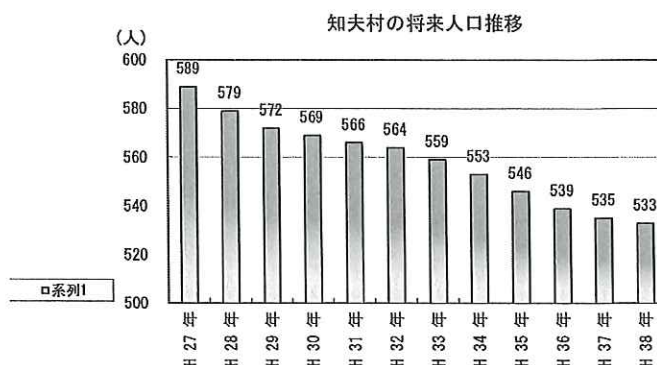
毎年人口減少により、料金収入が減額となっている傾向がみられる。また償還金の高止まりにより毎年経営状況が悪化している。今後35年度を目途に施設の更新等も検討しているため、償還金の高止まりはさらに予測される物である。経営状況の悪化を防ぐ為にも、維持管理の経費の抑制及び料金改定等を検討する必要がある。

今後35年度を目途に、施設の更新及び改修を検討しているが、改修を予定していない施設においても、早急な調査及び修繕工事などを実施して行く必要がある。

2. 将来の事業環境

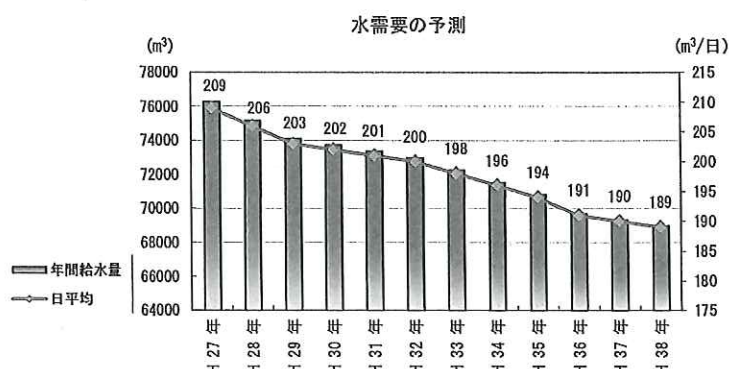
(1) 給水人口の予測

給水人口の予測は、「知夫村まち・ひと・しごと創生総合戦略」でかけける2040年における人口458人を長期目標とし、平成28年度から平成38年度までの間における給水人口の予測値とした。知夫村の人口は、年々減少傾向をたどっているが、知夫村戦略では平成27年度から平成31年度までの5年間に於いて、人口の自然減をマイナス30人にとどめプラス5人の社会増を見込んだ場合の推計値である。



(2) 水需要の予測

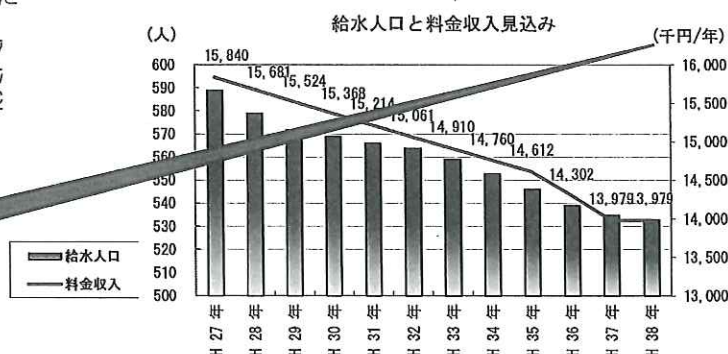
水需要予測は、過去の一人一日当り給水量をもとに、一日平均使用水量を算出し、年間の給水量を算出した。知夫村は、下水道施設が整備され供用しているため、生活水準の向上による単位水量の増加は見込まれている。また、人口の減少とともに給水量も減少する見込みである。



(3) 料金収入の見通し

料金収入の見通しは、現行の料金体系で維持した場合がグラフの通りとなり、給水人口の減少に伴い料金収入も減少する見込みである。今後は、施設の維持修繕等の維持管理費及び建設改良で投資し、費用をどのように、料金収入へ反映するか検討が必要である。

単位が間違っていましたので修正しました。



(4) 施設の見通し

知夫村簡易水道は昭和31年に創設し、昭和51年、昭和55年、平成6年に変更認可を経て、計画給水人口960人、日最大給水量474.2m³/日で今日に至っている。施設や管路においては、竣工後60年以上経過し老朽化が進む中、平成28年度から郡浄水場及び中央配水池の施設改良設計を行い、平成29年度から工事に着手予定である。また、水需要予測で使用水量が減少傾向にあるが、夏場など一時的に大量の水を使用する際に、支障のないような計画としている。

(5) 組織の見通し

現状がすでに、最小人員の配置であり、今後は兼務も考えられる。よって、1-④のとおり維持する。

3. 経営の基本方針

【基本理念】

知夫村簡易水道は、常に安全で安定した水道供給を目指している。その為に、健全な水道運営を行うことを念頭に、施設の改良・更新を視野に入れた日々の施設管理に力を入れ、知夫村の発展及び生活水準の向上を図り、持続可能な水道供給を行います。

【水源水量の確保】

知夫村簡易水道の水源のほとんどが地下水であることから、気象の影響による水位変動などの日常における監視を強化し、最大限の取水量を確保するとともに、限られた水資源であることから、自然環境との調和や、水源保全に努め、持続可能な水源を確保します。

【施設の維持】

施設の老朽化に伴う水道供給への支障を軽減するために、長期的な施設更新を検討するとともに、大地震や災害等で被害を最小限に抑えるために施設の耐震化を図り、強靱な水道施設整備を計画します。

4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画) : 別紙のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	基幹施設の更新と管路更新を行う。
-----	------------------

①基幹施設の更新

知夫村の基幹施設である郡浄水場及は、建設から40年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいます。この事業は平成28年度から実施設計に着手し、平成29年度～平成31年度で工事を予定し、事業費の総額は380,700千円を見込んでいます。

②管路更新

知夫村簡易水道内の管路は、布設後に一定期間の年数が経過している。また、耐震性の向上を図ることを目的とし、平成32年度から更新事業に着手予定である。総事業費は350,000千円を見込んでいます。

年度別 工事内訳書		(単位:千円)									
年 度		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	合計
事業費		53,728	94,000	170,000	63,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	730,728
	郡 浄 水 場 更 新 工 事	53,728	94,000	170,000	63,000						380,728
	管 路 更 新 工 事					70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	350,000
財源内訳		53,728	94,000	170,000	63,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	730,728
	国 庫 補 助	17,864	47,000	85,000	19,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	343,864
	地 方 債	35,800	47,000	85,000	44,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	386,800
	そ の 他	64									64

② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	国庫補助を活用した、適正な財源を確保する。
-----	-----------------------

建設費の財源確保においては、「生活基盤施設耐震化等交付金」(厚生労働省)を活用し、老朽化した施設の更新及び耐震化を図り、長期的に見た今後の施設更新における維持管理費等の軽減を図る。

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

①修繕費;基幹施設及び管路更新を計画的に実施し、施設の長寿命化を図り、修繕費等の低減を図る。

②動力費;効率的な施設運用が可能な計画を行い、最低限の動力費で水道供給を行う。

(3) 投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

※ 投資・財政計画(収支計画)に反映することができなかった検討中の取組や今後検討予定の取組について、その内容等を記載すること。

また、(1)において、純損益(法適用)又は実質収支(法非適用)が計画期間内の最終年度で黒字とならず、赤字が発生している場合には、赤字の解消に向けた取組の方向性、検討体制・スケジュール等について記載する必要があること。

① 投資について検討状況等

民間の資金・ノウハウ等の活用 (PFI・DBOの導入等)	なし
施設・設備の廃止・統合 (ダウンサイジング)	人口減少が進み統廃合が必要と判断した場合、検討する。
施設・設備の合理化 (スベックダウン)	人口減少が進みスベックダウンが必要と判断した場合、検討する。
施設・設備の長寿命化等の 投資の平準化	施設の更新事業が完了後に、管路更新を計画(H32～5ヶ年程度)している。
広域化	なし
その他の取組	なし

② 財源について検討状況等

料 金	更なる有収率の向上に努め、適正な料金収入を見込む。
企業債	企業債を計画的に組み入れるよう検討している。
繰入金	安定した繰入金の確保を検討している。
資産の有効活用等(*2)による 収入増加の取組	資産状況が把握できるよう検討して
その他の取組	なし

*2 遊休資産の売却や貸付、債券運用の導入、小水力発電や太陽光発電など

③ 投資以外の経費についての検討状況等

委託料	検討済み
修繕費	長期的に見た施設更新を行い、修繕費の低減を検討中である。
動力費	施設運用の効率化を検討中である。
職員給与費	未検討
その他の取組	なし

5. 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

経営戦略の事後検証、 更新等に関する事項	一定期間を定め、検証・更新する。
-------------------------	------------------

--	--

区 分		年 度	前々年度 (決算)										前年度 (決算) (見込)									
			H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
収 益 的 収 入	1 総 収 入	益 (A)	17,429	17,234	16,958	16,729	16,475	16,217	15,909	15,581	15,243	14,906	14,611	14,243								
	(1) 営 業 収 入	益 (B)	16,011	15,851	15,692	15,379	15,225	15,072	14,921	14,771	14,623	14,313	13,990	13,990								
	ア 料 金 収 入		16,000	15,840	15,681	15,524	15,214	15,061	14,910	14,760	14,612	14,302	13,979	13,979								
	イ 受 託 工 事 収 入	(C)		11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11								
	ウ その他 収 入																					
	(2) 営 業 外 収 入	益	1,418	1,383	1,266	1,350	1,250	1,145	988	810	620	593	621	253								
	ア 他 会 計 繰 入 金		1,418	1,383	1,266	1,350	1,250	1,145	988	810	620	593	621	253								
	イ その他 収 入																					
	2 総 費 用	(D)	17,429	17,234	16,958	16,729	16,475	16,217	15,909	15,581	15,243	14,906	14,611	14,243								
	(1) 営 業 費 用		11,657	11,868	11,987	12,108	12,358	12,487	12,618	12,753	12,890	13,027	13,164	13,164								
ア 職 員 給 与 費		5,806	5,900	5,900	5,900	5,900	5,900	5,900	5,900	5,900	5,900	5,900	5,900	5,900								
ウ ち 退 職 手 当																						
イ その他 費 用		5,851	5,968	6,087	6,208	6,458	6,587	6,718	6,853	6,990	7,127	7,264	7,264									
(2) 営 業 外 費 用		5,772	5,366	4,971	4,842	4,497	4,117	3,730	3,291	2,828	2,353	1,879	1,447	1,079								
ア 支 払 利 息		5,772	5,366	4,971	4,842	4,497	4,117	3,730	3,291	2,828	2,353	1,879	1,447	1,079								
ウ ち 一 時 借 入 金 利 息																						
イ その他 費 用																						
3 収 支 差 引	(A)-(D) (E)																					
資 本 的 収 入	1 資 本 的 収 入	(F)	43,594	65,867	72,784	114,207	191,460	85,545	98,243	99,506	101,659	100,556	29,702	25,759								
	(1) 地 方 債		20,200	28,200	35,800	47,000	85,000	44,000	35,000	35,000	35,000	35,000										
	ウ ち 資 本 費 平 準 化 債																					
	(2) 他 会 計 補 助 金		17,194	18,367	19,056	20,207	21,460	22,545	28,243	29,506	31,659	30,556	29,702	25,759								
	(3) 他 会 計 借 入 金																					
	(4) 固 定 資 産 売 却 代 金																					
	(5) 国 (都 道 府 県) 補 助 金		6,200	19,300	17,864	47,000	85,000	19,000	35,000	35,000	35,000	35,000										
	(6) 工 事 費 担 当 金																					
	(7) その他 収 入				64																	
	2 資 本 的 支 出	(G)	43,594	65,867	72,784	114,207	191,460	85,545	95,125	98,243	99,506	101,659	100,556	29,702	25,759							
資 本 的 支 出	(1) 建 設 費		26,833	47,500	53,728	94,000	170,000	63,000	70,000	70,000	70,000	70,000										
	ウ ち 職 員 給 与 費																					
	(2) 地 方 債 還 金	(H)	16,761	18,367	19,056	20,207	21,460	22,545	28,243	29,506	31,659	30,556	29,702	25,759								
	(3) 他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金																					
	(4) 他 会 計 へ の 繰 出 金																					
(5) その他 支 出																						
3 収 支 差 引	(F)-(G) (I)																					

投資・財政計画
(収支計画)

(単位:千円, %)

区分	年 度	前々年度 (決算)	前年度 (決算)	本年度	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
収支再差引	(E)+(I)	(J)												
積立金	(K)													
前年度からの繰越金	(L)													
前年度繰上充用金	(M)													
形式収支	(J)-(K)+(L)-(M)	(N)												
翌年度へ繰り越すべき財源	(O)													
実質収支黒字	(P)													
(N)-(O)	赤字	(Q)												
赤字比率	$\frac{(Q)}{(B)-(C)} \times 100$													
収益的収支比率	$\frac{(A)}{(D)+(H)} \times 100$													
地方財政法施行令第16条第1項により算定した 資金の不足額	(R)													
営業収益－受託工事収益	(B)-(C)	(S)	16,000	15,840	15,681	15,368	15,214	15,061	14,910	14,760	14,612	14,302	13,979	13,979
地方財政法による 資金不足の比率	$\frac{(R)}{(S)} \times 100$	(T)												
健全化法施行令第16条により算定した 資金の不足額	(U)													
健全化法施行規則第6条に規定する 解消可能資金不足額	(V)													
健全化法施行令第17条により算定した 事業の規模	(W)													
健全化法第22条により算定した 資金不足比率	$\frac{(T)}{(V)} \times 100$	(X)												
他会計借入金残高	(W)													
地方債残高	(X)													

(単位:千円)

区分	年 度	前々年度 (決算)	前年度 (決算)	本年度	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H37
収益的収支分		1,418	1,383	1,266	1,415	1,350	1,250	1,145	988	810	620	593	621	253
うち基準内繰入金		1,418	1,383	1,266	1,415	1,350	1,250	1,145	988	810	620	593	621	253
うち基準外繰入金														
資本的収支分		17,194	18,367	19,056	20,207	21,460	22,545	25,125	28,243	29,506	31,659	30,556	29,702	25,759
うち基準内繰入金		17,194	18,367	19,056	20,207	21,460	22,545	25,125	28,243	29,506	31,659	30,556	29,702	25,759
うち基準外繰入金														
合 計		18,612	19,750	20,322	21,622	22,810	23,795	26,270	29,231	30,316	32,279	31,149	30,323	26,012

○他会計繰入金

(単位:千円)

[illegible]

経営比較分析表

島根県 知事村

業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	簡易水道事業	D4
資金不足比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	100.00	4,300

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
592	13.70	43.21
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
596	13.70	43.50

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 平成27年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について
 毎年人口減少により、料金収入が減額となっており、傾向がみられる。また償還金の増額により毎年度の増額が膨らんでいる。今後35年度を目途に施設の更新等も検討しているため、償還金の増額はさらに予測されるものである。経営方針の進化を防ぐ為にも、維持管理の経費の抑制及び料金改定等を検討する必要がある。

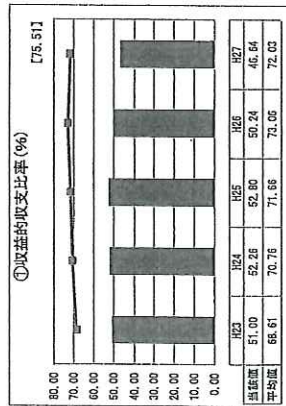
2. 老朽化の状況について

今後35年度を目途に、施設の更新及び改修を検討しているが、改修を予定していない施設において、緊急な調査及び修繕工事などを実施して行く必要がある。

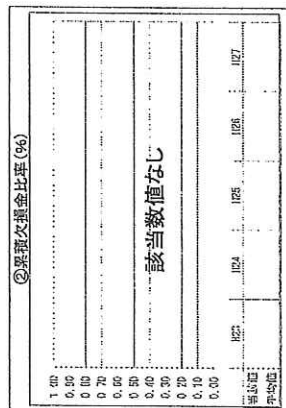
全体総括

県内でも一帯小さな自治体であり、1世帯あたりの数値の算出が全体に対し影響が大きい。今後施設の改修等において、償還費は右肩上がりに大きいとなっていく体質である。難題と言った条件下で、人口減少を視野に入れた料金及び料金改定と言った施策を行い、経営の健全化を図るものとする。

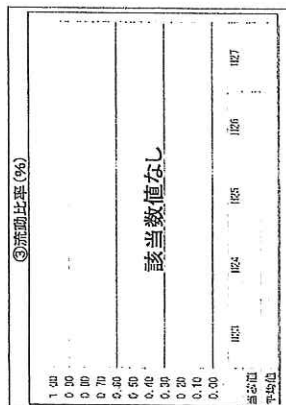
1. 経営の健全性・効率性



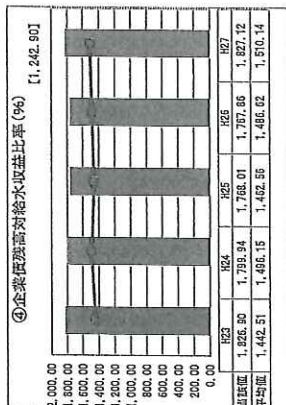
「単年度の収支」



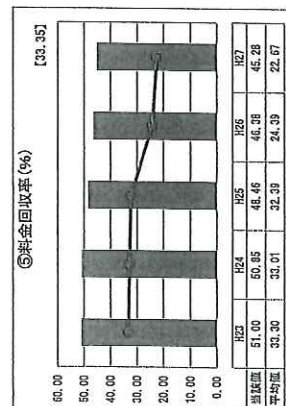
「累積欠損」



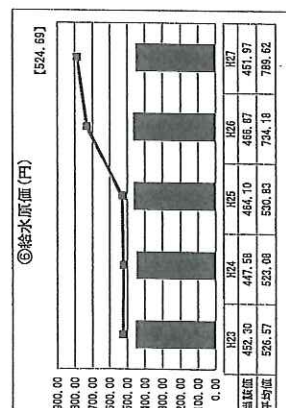
「支払能力」



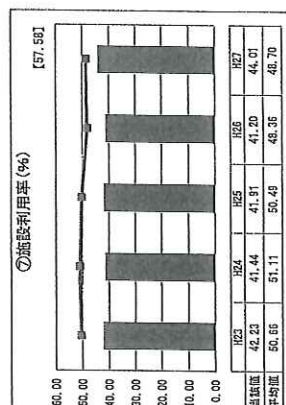
「償還減額」



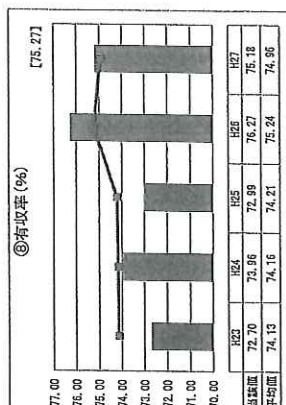
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

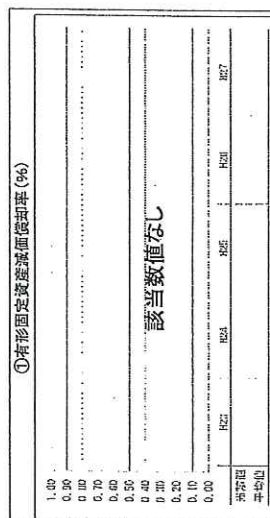


「施設の効率性」

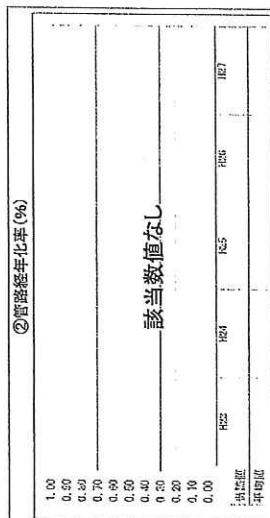


「供給した配水量の効率性」

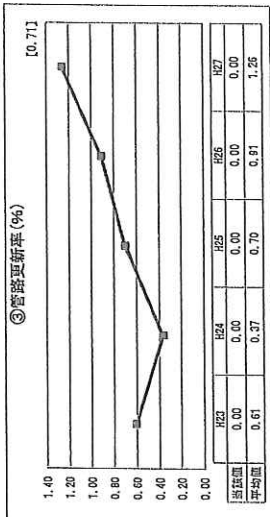
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年劣化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

※ 平成23年度から平成28年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

簡水

(円)

	元金	利子	合計	年度末残高
H29	20,207,167	4,842,399	25,049,566	328,254,787
H30	21,460,802	4,497,364	25,958,166	333,193,985
H31	22,545,664	4,117,870	26,663,534	337,048,321
H32	25,128,842	3,730,854	28,859,696	321,919,479
H33	28,243,568	3,291,072	31,534,640	293,675,911
H34	29,506,419	2,828,161	32,334,580	264,169,492
H35	31,659,210	2,353,436	34,012,646	232,510,282
H36	30,556,728	1,879,090	32,435,818	201,953,554
H37	29,702,774	1,447,122	31,149,896	172,250,780
H38	25,759,707	1,079,909	26,839,616	146,491,073

下水

(円)

	元金	利子	合計	残高
H29	37,042,977	9,753,829	46,796,806	499,792,809
H30	35,055,244	9,101,160	44,156,404	479,737,565
H31	28,651,934	8,536,743	37,188,677	451,085,631
H32	29,173,144	8,019,324	37,192,468	421,912,487
H33	29,704,447	7,488,021	37,192,468	392,208,040
H34	30,873,606	6,946,704	37,820,310	361,334,434
H35	31,424,557	6,395,753	37,820,310	329,909,877
H36	31,674,812	5,834,592	37,509,404	298,235,065
H37	32,245,384	5,264,020	37,509,404	265,989,681
H38	32,530,908	4,682,698	37,213,606	233,458,773